

青谷 地歴甲子園で最高賞

上寺地遺跡出土土器を試作 焼成法考察



「実証的、優れた研究」県勢初

鳥取県立青谷高（鳥取市）がまとめた研究が、歴史や青谷町青谷の3年生7人「地理、文化財の研究成果を

競つ「全国高校生歴史フオーラム（地歴甲子園）」で、最高賞となる奈良県知事賞に輝いた。同甲子園で県勢が最高賞を受賞するのは初。弥生土器を自作する課題探究授業での実験を通し、当時の土器がどのように焼成されたのかを考察した。審査員からは「実証的に追究した優れた研究」と高い評価を受けた。

地歴甲子園は毎年奈良大と奈良県が開催。今年は全国70校から応募があり、優秀賞5件、佳作7件を選出。奈良大であった13日の最終審査で、優秀賞の中から最高賞の同知事賞と奈良大学長賞が選ばれた。

青谷高は2年の「青谷学」、3年の「課題探究・文学歴史コース」「弥生文化探究」の授業で、青谷上寺地遺跡の発掘調査体験、

地歴甲子園で鳥取県勢初の最高賞を受賞した青谷高の生徒。鳥取市青谷町青谷

土器作り、古代米の栽培を行う。受賞した生徒7人は、2年にわたる土器制作の経験を取りこぼさずまとめた。

「青谷上寺地遺跡出土土器の黒斑分析―土器づくり体験からのアプローチ」と題した研究では、同遺跡の出土土器がどのような焼成方法で作られたのかを深掘り。生徒は実際に「覆い型野焼き」と「開放型野焼き」の二つの方法で試作した。黒斑の形や位置、境界線の特徴を出土品と見比べ、「規則性や境界がはっきり見られる覆い型野焼きの可能性が高い」と考察した。

奈良大で発表した福本孔明さん(17)は「発表内容を練り上げ、大きなホールで発表したことは自信にもつながった」、岡本杏珠さん(17)は「弥生時代の遺跡が身近にあり、実際に学べる高校はほかにない。研究の面白さを感じた」と充実感を語った。

研究をサポートした吉田学教諭(49)は「生徒の努力はもたらん、遺跡を管理す

る関係機関や研究者の指導や協力で受賞できた。特色ある青谷高の魅力発信につながれば」と喜ぶ。鳥取県勢では、八頭高の研究リポート「鳥取池田家の家老墓について」も優秀賞に輝いた。(松本妙子)